

山形県自治講習所日誌——大正十三年度（第九期生）

〔表紙〕大正十三年度 日誌 第九期生〔1月17日～4月30日〕

月日 曜日 天候 氏名

一、起居

一、学科（実習）

一、記事

一、所感

記事ノ適確

粗漏ハ失敗ノ因

所感ハ反省ノ必須材料

一月拾七日 木曜日 曇 安孫子春弥

一、起居 五時

一、学科 第一校時 農村経営（高野先生）

第二校時 植物生理（江坂先生）

第三校時 林業（横田先生）

后後三時依り四時マデ武道ノ講話

一、記事 別ニナシ、但シ后後図書館ノ館長来ル。学校校「ママ」デハ体育ノ本及其ノ他ノ本ヲ買フ事ニセリ。深クハ知ラズ。夜ハ七時依り九時マデ茶話会有リ。

一、所感 今日ハ大正拾参年一月十七日ナリ。然シテ第九期ノ学科ノ初ナリ。紀念ノ日ヨ、祝フベキ日ヨ、我等ガ希望有ル将来ノ為ノ修養ノ第一日ヨ、生レ出シ者ノ生湯〔産湯〕ノ禊、ナンゾ快ナル。震立ツ腕、其ハ寒ニ非ズ、農村青年ノ中心人物トシテ我帝国背担ヒ立ツ想ノ閉リ其ノ輝ク顔ヲ見ヨヤ。

壹月拾八日 金曜日 晴 後藤雄太

一、起居 五時

一、学科 第一校時植物生理（江坂先生）

第二校時地方自治制度（利根先生）

第三校時地理（曆ノ話）（仲澤先生）

第四校時武道（全部）（船越先生）

- 一、記事 后午ヨリ弥栄雑誌發送せり。

斎藤洋服店（主人）来たりて……生徒の服新調するに付后午七時頃寸法をとり
に参れり。

- 一、所感 我々の悪風は国家の将来を危険ならしむるものであるから、何人でも常に注心
注意を以て事に衝るが大切と思ふ。

謂所〔所謂〕我々は斯如くの立派なる自治寮にて団体生活を営み且つ自治的観念
を養請し居る我等は一層気を付けて此ノ講習所の汚名をけがさない様に致しまし
よ□ではありませんか。幾重にも懇願奉る云々。

壹月拾九日 曇 小形三郎次

- 一、五時 起居

- 一、学科 県下産業（高野先生）

副業養鶏（森谷先生）

- 一、記事 午后後藤君県庁ニ金取り（自治講習所）

又弥栄九号ヨリ十四号渡シ

- 一、所感 入所以来第一回の日曜が来たので、新入生が沢山帰へった家の時を思ひつつか
へった事でせう。僕もその一人であつた。

一月二十日 晴後曇 渡部鉄之助

- 一、五時 起居

- 一、学科 休み

- 一、記事 船越先生、中学校武道大会に行きました。

- 一、所感 此の頃の寒さと思つて居つた所、今朝起き見たら早や一面の銀世界となつてお
る。どこからともなくあはれな納豆売の音が聞こえてくる。あちらこちらより起
る起床の合図、また々くうちに戸をた々く音、いよいよ掃除が始まつたらしい。
我等の掃除も始まつた。身を切る様な寒さにどこからともなく犬の音が聞へてく
る。如何に喜び居ることと思はる。一寸雪の朝と云ふ様な形で所感を書いた次
第であります。

一月二十一日 雪 木村庄右衛門

一、学科 農村経営 二時間（高野先生）

歴史（五十嵐先生）

一、五時 起居

一、記事 別ニナシ

一、所感 別ニナシ

一月二十二日 火曜日 晴 阿部多市郎

一、起居 五時

一、学課 一校時 土壌学（高野先生）

一、記事 午前十時ヨリ全部身体検査〔検査〕行ウ。午後三時ヨリ法制ノ本筆記ス。

一、所感、今日は一点の雲もなく晴れ渡り太陽は此の頃のない光りにて銀世界を照しつつ有りました。所が雪遊□大好の私はつくづく感じ得なかつた。若〔もし〕もう少し雪が多かつたなら如何に此の日も楽しく愉快に□□したでやら。

一月二十三日 水曜日 雪 大川雄蔵

一、起居 五時

一、学科 第一校時 産業組合 高野先生

第二校時 同 高野先生

第三校時 桑園栽培 荒木先生

一、記事 午後三時ヨリ講習生一同大掃除ヲ致マシタ。

一、所感 昨日の天気は急に変り寒さ厳く大寒の気する。

一月廿四日 木曜日 曇 渡部一郎

一、起居 五時

一、学科 第一校時 林学（横田先生）

第二校時 習字（船越先生）

一 1、記事 午前八時半ヨリ生徒一同師範学校ニ行き皇太子殿下御成婚奉祝唱歌ヲ五十嵐先生ヨリ習フ。

2、午後三時半ヨリ一同工業学校ノ寒稽古納会ヲ見学ニ行ク。

一、所感 只常ニスベテノ事ヲ人並ニヤツテ行キタイト思ヒマス。

一月二十五日 金曜日 晴 森廣藏

一、起居 五時

一、学科 第一校時農学大意 高野先生

第二校時地方自治制度 利根先生

第三校時地理 中沢先生

第四校時校外掃除

一、記事 欧州視察シテ居ツタ加藤所長先生ガ明日帰ヘルノデ今迄デノ卒業生ガ御出迎へ出ルコトナツテ午後ヨリポツポツ来、晚ニハ大多数集合シマシタ。

一、所感 夕方ニ天晴渡リ明日加藤先生ノ帰ヘリニハキツト天気ガ善イト思ツタ。室々ヨリハ卒業生ト現在生トノ話ノ声ガ面白クキコヘタ。

一月二十六日 土曜日 晴 武田玄治

一、起居 四時

一、学科 ナシ

一、記事 加藤所長帰へるの電報達するや本日こそはその日であつた。午前五時五十七分着と云ふので僕等は五時停車場に出発、案に従ひ五時五十七分の列車にて無事着、加藤所長の弥栄三唱、加藤所長よりは天皇陛下、皇太子殿下の弥栄各三唱して意気陽々「揚々」として帰へる。九時より所長の海外での有益な御話を承たまはる。午後一時より皇太子殿下御成式を挙ぐ。その夜十一時まで一笑会の総会あり。

一、所感 ナシ

一月二十七日 晴 日曜日 佐藤五雄

一、起 五時

一、学科 無シ

一、所感 無シ

一月廿八日 月曜日 晴 小野今朝吉

一、起居 五時

一、学科 第一校時農学大意（土壤）高野先生

第二校時農村経営（但シ我等青年時代ヨリ自己ノ目的ヲ定メ貫徹シベス〔スベシ〕トノ御訓話）加藤先生

第三校時歴史 五十嵐先生

第四校時 武道（全部） 船越先生

一、記事 夕食前船越先生役員ヲ集メ生徒一同柔道着ヲ買フ事ノ御通達アリ。

一、所感 今日第二校時、加藤先生曰ク人間ハ青年時代ヨリ自己ノ目的ヲ定メ正シキヲ信仰シ誠実ニシテ貫徹シベス〔スベシ〕トノ御訓話、愚鈍ナル僕モ胸中ニ徹底シタ。以上、事項ナシ。

一月二拾九日 火 晴天 金子藏雄

一、起床 五時

一、学科 第一校時 農学大意（土壤）高野先生

第二校時 自治制度 利根先生

第三校時 桑樹栽培 荒木先生

第四校時 武道（全部）船越先生

一、記事 ナシ

一、所感 僕くは入所以来間もなく事務室当番今日だった。自治講習生々活も大要はプア一な頭にも徹底した。塵埃集めて山となり水滴諺〔湛〕へて海になる。かやうに修養に日常心掛けて行き、日々小善積て大善をなすべき理想です。如何なる高德の人も然るものです。修養を積んで後成功したいものである。

一月三拾日 水曜 晴 大塚淳治

一、起床五時

一、学科 第一時間目 農村経営 高野先生

第二時間目 法制 地方課長

第三時目 産業組合 所長

第四時間目 大掃除 全部（生徒）

一、記事 ナシ

一、所感 僕は去年一年此の講習所に御厄介になつても未だ修養足らざるため、亦本年も二ヶ月程御厄介に成るのです。僕は現在まで世の中の総ては矛盾とのみ覚へて居りましたけれど、先達より世の中の総ては矛盾等とは馬鹿気切つたことだと了解しました。やはり自己のみ自信あり信仰あるならば、世の如何なる人は何んと云ふとも、決して矛盾だなんて思ふ筈がないのである。皆己の努力の足らい「らない」結果に外ならないのである。今後は僕も自信ある腕で動きます、働きます。現在此の様な笑止千萬な印は僕の胸に描かれて居るのであります。

一月三十一日 木曜日 曇 石橋八重次郎

一、起床 五時

一、学科 第一校時 土壤学 高野先生

第二校時 農村経営 所長

第三校時 習字 船越先生

第四校時 武道 船越先生

一、記事 ナシ

一、所感 僕ハ此ノ講習所ニ入所以来既二十日、日ハ浅クアレドモ愚鈍ナル僕ニ何物カ得ツツ有ル感ジス。然リ、朝ノ禊ニ身ヲ清メ武道ニテ心ヲ練リ熱情溢ルル諸先生方ノ日々ノ御教訓、何物モ得ズシテ天地ノ神ニ濟マン、出来ナバ郷土ノ自覚セザル明友ニ日一日タリトモ受ケサセ度シ。之ノ講習ト、日夜所感湧キ出ズ。

二月二日 土曜日 晴天 伊藤良輔

一、起床 五時

一、学科 第一校時 農村経営 所長

第二校時 副業 森谷先生

一、記事 別に無し。午後より植物発芽試験之準備をなす。

一、所感 大正も最早十参年私も農村青年として三ヶ年、うかうか暗黒の底に過した私は、ふと講習所の教へにゆり起されてより一步一步の地に近づくやうな気がします。私は反省し後悔した。吾等は国家の中堅だ。吾等の生命は即ち国家の生命だ。我等青年の覚醒は国家発展の元だ。吾等は常に国家を背負ふて居るのである。鍛練せよ身体を、養なへ精神を、然して国家の重みに腰をぬかしてはならん。

立てよ講習生、世の文明は農村青年をして暗い徹底して居る、講習所の響は容赦なくどんどんと光明の地に其の勢何物をも倒さん。覚醒せよ健児諸君、益々本講習所の精神につのり「つのりに傍点」之を天下に普及し隣人を愛し、天職に徹底し、努力し、最も意義ある生活を送りたい思つて居る、生死を明覚して……。

二月四日 月曜日 晴天 山口茂工衛門

一、起床 五時

一、学科 第一校時 農学大意（高野先生）

第二校時 農村経営（個人本位）所長

第三校時 歴史 五十嵐先生

一、記事 別になし

一、所感なし

二月五日 火曜日 曇 有路清助

一、起床 五時

一、学科 第一校時 植物学 江坂先生

第二校時 自治制度 利根先生

第三校時 金井村研究 金井村ヨリ

一、記事 本日午後三時カラ武道の形ヲ習フタ。

一、所感 愈々今日カラ春ダ。之レ迄一ヶ月モ烈シイ寒サニサラサレタノガ立春ニナツタラ急ニ日ガ長閑ニナツタ様ナ氣ガ致シマス。然シ今日ハ以外「意外」ニ寒クアリマシタ。日ハ一日ト長クナツテ行クヤウナ感ジガ致シマス。

二月六日 水曜日（快晴）井上松雄

一、起床 五時

一、学科 一校時 農学大意（高野先生）

二校時 産業組合（全）

三校時 桑樹栽培（荒木技手）

一、記事 去りし一月二十五日国民挙つて御祝しました御成婚……、その当日の有様を活

動写真に撮影した記念写真が県会議事堂で公開されたので、生徒一同参観に行つた。全く立錫の余地ない有様、斯くして又と見ることの出来ない映画を見た。

二月七日 木曜日（曇り） 本間祐次

一、起床 五時

一、学科 第一校時 農業政策（高野先生）

第二校時 法制筆記

第三校時 林学

武道の時間、船越先生から柔道の御話しを聞いた。

一、記事 来る十一日の日に教員養成所主催で武道大会をやるので此処よりも試合に出る様にとの通知あつたのでその選手を定めた。

一、所感 なし

二月八日 金曜日 曇 中村竹尾

一、起床 五時

一、学科 一校時 農学大意（高野先生）

二校時 自治制 刀禰先生

三校時 地理

一、記事 午後七時より茶話会を開く。

一、所感 昨夜の雨の名残も全く晴れやらで温い湿り風が窓硝子を磨る。先生達も「気味が悪い様な天気」だと申されてゐた。午前九時頃、所長殿、大元氣にて来所致され、農大「農学大意」の時間をさいての御話しに我等は「徹底的に研究せよとの御言を呈戴〔頂戴〕した。四時頃武道の時間に高野先生より皇国運動に付いて御話し下さいました。それは之の運動の精神即ち皇国の神代と大和魂とを貫いてゐる心と形式とのことである。

（夜は茶話会あり）所長さんの御話しに出発（欧米へ）より帰朝までの道すじと風光文物を御挙げなされて我等の緊揮一番すべきことを力説致されました。実に之のお話の中には「□への愛国心」「邦国と米国との関係」「帝都の惨状」等大いに心すべきものであつた。

二月九日 土曜日 曇 保科宇一郎

一、起床 六時

一、学課 第一校時 副業（養鶏）

第二校時 県下産業

一、記事 なし

一、所感 強かれと弱き心にむちうてど そを裏切りて泪ながるゝ

二月十日 日曜 少雪 保科宇一郎

一、起床 六時

一、学課 なし

一、記事 なし

所感 湧き出る我等の赤い血潮！ 高鳴る此の腕この心！ 野火のやうなはげしい、しかも強い熱情の所有者！ それは何でせう。青年だ、青春のほこりだ。そのほこりを感じる時ほど祝福された瞬間は又とあらうか。行かない、若き人々よ、共にともに美しいこの力もて。

二月十一日 月曜 曇 佐藤直之助

起床 六時

学課 無し

記事 紀元節 実業補習学校教員養成所主催の武道大会を師範学校道場にて挙行せらる。

本講習所生も県下青年団員を向ふに廻し大いに鉄腕をふるふ。□□本間祐次君の病床にありしを遺憾とす。兄の心中将又いかん！

所感 なし

二月十二日 火曜日 曇

起床 五時 瀬尾清吉

学課 第一校時 植物 江坂先生

第二校時 自治制 刀禰先生

第三校時 村ノ研究 五十嵐先生

第四校時 武道（全部） 船越先生

二月十三日（水曜日）天気 曇

一、起床 午前五時 平田彦三

一、学科 第一校時 農学大意（土壤学）高野先生

第二校時 法制 地方課長

第三校時 栽桑 荒木先生

第四校時 大掃除 全生徒

一、記事 本日第三校時産業組合ナルモ荒木先生ノ都合上、桑樹栽培ト変更セリ。外記事ナシ。

一、所感 日々ノ（修養）御指導ニヨリ一人前ノ人トナル得ル事ハ心ヨリ喜バシ。

二月十四日 木曜日 天気 雪 淀野清二郎

一、起床 午前五時 就床 午后九時

一、学課 第老校時 農村経営 高野先生

第貳校時 産業組合 高野先生

第参校時 習字 船越先生

第四校時 武術 船越先生

一、記事 第三校時の時間の一部を割きて講習生総て種痘を行ふ。県衛生課より出張せられて。

一、所感 ◎おりに遊ぶいとまのある人の いとまなしとて文よまぬかな

◎この歌の意味を評するに、口に多忙を語るものにしても若干の文読む時間ありと。今吾等の生活には幾何の文見る時間ある哉を。

二月十五日（金曜日）天気 雪 手塚三郎

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 農学大意 高野先生

第二校時 科外講演 山崎先生

第三校時 地理 中沢先生

第四校時 武術 船越先生

一、記事 午前六時所長帰形。全列車ニテ山崎先生来形。午前十時ヨリ県会議事堂ニテ一

同講話傍聴、午后零時半頃迄。午后二時ヨリ三時十五分迄地理。
一、所感 我ガスキ事ハ人ニ振舞へ、己ノ欲セザル所ハ人ニ施ス忽レ。之実ニ我等ノ取ル
ベキ道也。

二月十六日 土曜日 曇雪 松田久五郎

一、起居 午前五時

一、学科 第一校時 県下産業（高野先生）

第二校時 農村経営（加藤先生）

一、記事 第二校時ハ森谷先生ノ副業ナリシモ事務ノ都合上加藤先生ノ「日本ニハ自由ナ
シ」ニ関スルオ話アリマシタ。

一、所感 本日第二校時ノ加藤先生ノ訓話ニ覚知シテ我々農民ハ共同協力シテ国家ヲ愛シ
テ国家興隆ノ道ニ尽力スベキヲ痛切ニ感ジケリ。

格言 なせばなる、なさねばならぬ何事も ならぬは人のなさぬなりけり
之ノ格言ハ我々日常ニ取ルベキ要点デアリマス。

二月拾七日 日曜日 雪 黒坂武雄

一、起居 午前六時

一、学科 無シ

一、記事 無シ

一、所感 無シ

二月拾八日 月曜日 雪 杉沼善治

一、第一校時 農学大意（高野先生）

一、第二校時 農村経営（加藤先生）

一、第三校時 歴史（五十嵐先生）

一、第四校時 武道（船越先生）

一、記事 無シ

一、所感 無シ

二月拾九日 火曜日 晴 安孫子元吉

- 一、第一校時 植物 江坂先生
- 一、第二校時 農村経営 高野先生
- 一、第三校時 金井村研究 五十嵐先生
- 一、第四校時 武道 船越先生
- 一、記事 無し
- 一、所感 農業ハ天地間ニ有リテ万物ノ化育ヲ賛スル業務ナリ。

二月二十日 水曜日 晴 沖津一郎

- 一、第一校時 法制筆記 森谷先生
- 一、第二校時 農学大意、植物（但し植物は四十分間）
- 一、第三校時 習字 船越先生
- 一、第四校時 大掃除
- 一、記事無し

一、所感 加藤先生の熱烈なる訓話に自覚し吾人は須く利己主義を去て皇国を愛し皇国の
弥栄を計らねばならないと感じた。

二月廿一日 木 曇 柴田誠蔵

- 一、起居 午前五時
- 一、学科 第一校時 農村経営 高野先生
- 第二校時 憲法筆記
- 第三校時 林業 横田先生
- 武道 撃剣、柔道

一、記事 ナシ

一、所感 共同戮力は最も大切なものにして小異を捨て、大同に合し個人共に公共の利益
を進むる心掛の肝要なことを感じた。

二月二十二日 金 雪 晴

- 一、起床 午前五時
- 一、学科 第一校時 農学大意 高野先生
- 第二校時 自治制 利根先生

第三校時 地理 中沢先生
第四校時 武道 船越先生

一、記事 ナシ

一、所感 中沢先生ノ熱烈ナル我が国家ノ状況ト世界列強トノ關係〔關係〕ノ才話聞イタ。

我が国民ハ世界一等国ト思ツテイルガ列強デハ決シテ思ハナイ。コレ実ニ我が国民ハ恥ル事ナリ。我等青年ハ常ニ国家ヲ重ジ□ニ国家ヲ愛シ且ツ大私魂ヲ心ニ忘レナク我が国威ヲ世界ニカガヤカサント感ズタ。

二月二十三日 土曜日 曇後雪 竹田哲

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 産業組合 高野先生

第二校時 副業 森谷先生

午後ヨリ休

一、記事 柏倉門伝ノ青年団員視察ニ午后一時頃来タ。

一、所感 ナシ

二月二十四日 雪後晴 後藤寅男

一、起床 午前五時

一、学科 ナシ

一、記事 ナシ

一、所感 熱心質朴併も真劍的なる諸先生の御心にそいまつるやう我等は自發的に送り出た処の気分を以つて勉めなければならぬと感じた。

二月二十五日 月曜日 曇天 樋口庄三郎

一、起居 午前五時

一、学科 第一校時 農学大意 高野先生

第二校時 農村経営 高野先生

第三校時 歴史 五十嵐先生

第四校時 武道 船越先生

一、記事 ナシ

一、所感 入所後最モ深ク感じタ事ハ如何ナル人ニモ尊イ仕事ガアルモノダトイフ事デス。ソノ仕事ハ人ノ世ノ中カラ真面目ナ人々ノ不安ヲ去ルコトニアルト思イマス。不安ノ更ニ存シナイ処ハ人ノ理想ノ郷デアルト思イマス。静カニ考ヘレバ分ヲ知ルコトガ出来マス。自己ノ前後ニ不安ガ存スルナラバ、ソレヲ去ル上ニ最善ノ方法ヲ考エテ実行スルノガ吾等ノ仕事デス。自己ノ不安ヲ去ルコトハ人間ノ不安ヲ去ルコトニナリマス。

二月廿六日 火曜日 曇天 白石重一

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 農村経営 高野先生

第二校時 自治制 刀禰先生

第三校時 歴史 五十嵐先生

第四校時 擊劍 柔道 舟越先生

一、記事 第三校時金井村研究なりしも歴史をなす。図書室にて置賜会あり。

一、所感 個人主義極端は国家社会人類の破滅である。自分を自重し自治し公德心がなければならぬ。すなわち我等は共同的動物なれば共同するには己れを捨てざるべからざるを感ず。我国□「独？」立自由をなさんとせば個人主義の極端を改善せざるべからず。我国民性の大部を見る。慨歎せざるを得ず。

二月廿七日 水曜日 天気曇り 原田幾松

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 憲法筆記

第二校時 憲法 地方課長

第三校時 習字 船越先生

第四校時 大掃除 全生徒

一、記事 第一校時農学大意なりしも憲法筆記をなす。第三校時産業組合なりしも先生の都合上習字を行ふ。

一、所感 入所すて深く感じた事は所長の話された所の何事も信仰の以つて行ふ事と、舟越先生の毎朝言はれる気剣体一致にてな□事で、第二の国民民として国家を維持し事に欠べからざる必用な事と深く感じます。

二月二十八日 木曜日 天気曇 高橋貞次

一、起床 五時

一、学科 一校時 産業組合 高野先生

二校時 農村問題ノ解決（信仰）所長、農村経営 高野先生

三校時 林学 横田先生

四校時 武道 舟越先生

一、記事 都合上三校時迄ノ時間割右ノ如ク変更ス。午前九時迄北谷地青年三十名短期講習に來所ス。今夜本所ニ宿ル。午後七時ヨリ茶話会、加藤先生詩吟又西郷トトルストイノ金モ名誉モイラヌ地位モイラヌ命モイラヌモノハ仕末ニコマル、カ、ルモノナラデハ役ニ立タヌ。カ、ル者デ正道ヲ踏ミ進、愛ト云フ思想ヲ持テ居ルハヨク似テ居ルノ話等色々承ル。

一、所感 所長ヨリノ訓話ノ信仰ハ我々人間ニハ無クテハナランモノト深く感ズ。此ノ信仰無シデ生活シテ一生ヲ送ル様ナ者ハ人間トシテ生レタ意義ノ無イ屑デアルト思フ。今迄ハ神仏ヲ拜ムノガ信仰ト思ツテ居ッタハ間違デアッタ。

二月二十九日 金曜日 晴 阿部四郎

一、起居 五時

一、学科 一校時 所長講話（農村改善）

二校時 自治制度 刀禰先生

三校時 地理 中津先生

一、記事 一校時ニハ北谷地青年団三十名モ加リテ所長ノ講話ヲ聞ケリ。午後八時山形青年団ニ対シ道場ニテ所長ノ講話アリ。

一、所感 一校時ニ於ケル農村改善ノ講話、實ニ農村青年トシテノ責任ヲ痛感セズニハ居ラレヌ。即チ我々ハ心ノ奥底ニ明確ナル理想信仰アルヲ要スル事ヲ。先ヅ以テ我々ハ自己ノ完成スル事ガ現在ニ於ケル孝デアリ忠デアリ、最大ノ道德デアルト思フ。

参月一日 土曜日 曇 新藤新一

一、起居 五時

一、学科 第一校時 副業養鶏 森谷先生

第二校時 農村経営 所長

一、記事 先生ノ御都合上時間割ノ通ナラズ。二三名ノ来客アリ。午前ノミニテ学科ナシ、夜庄内会アルラシ。

一、所感 所長様ノ一句一句実ニ身ニ沁ミル朝ノ禊モ武道モ一層強イ深イ意味ヲ感ズル。

三月二日 日曜日 雲り 鈴木幸市

一、起床 六時

一、学科 ナシ

一、記事 ナシ

一、所感 今夜七時ノ貝ノ声ヲ聞キテモ目読ヲ始メ様トスル者ノ少ナキ事デアル。次ハ各室ノ草履ノ乱脱ナ事デアル。御互注意センケレバナラント思フ。

三月三日 月曜日 晴 遠田寅治

一、起床 五時

一、学科 第一校時 農村経営（高野先生）

第二校時 農村経営（高野先生）

第三校時 歴史（五十嵐先生）

第四校時 人体寄生虫ノ話（県庁衛生課）

一、記事 蛔虫駆除ノ為メ生徒一同夕食ヲ断ジテ薬ヲ飲ンダ。

一、所感 人生ノ快不快ハ自己ノ心ノ持チ様ニヨルヲ明瞭ニ覚エタ。快ヲ求メントスレバ理想ヲ要ス。此ノ理想ニ向ツテ一歩一歩進マンノミ。

三月四日 火曜日 曇 高橋忠右エ門

一、起床 五時

一、学科 第一校時 農学大意（高野先生）

第二校時 自治制（刀禰先生）

第三校時 金井村研究（五十嵐先生）

一、記事 第四校時に朝鮮より来たる人に朝鮮の話ありたり。
一、所感 なし。

三月五日 水曜日 晴 佐藤常吉

一、起床 五時

一、学科 第一校時 憲法筆記 結城誠一君

第二校時 農学大意 高野先生

第三校時 産業組合 高野先生

一、記事 第四校時より大掃除をやる。

一、所感 なし

三月六日 木曜日 雲 渡部勝太郎

一、起床 五時

一、学科 第一校時 農村経営 高野先生

第二校時 習字 船越先生

第三校時 武道 船越先生

第四校時 武道 船越先生

一、記事 本日は林学先生都合上きませんから、第二校時習字をやり、第三四校時は武道をやりました。外記事なし。

一、所感 ナシ

三月七日 金曜日 雪 佐藤好

一、起床 五時

一、学科 第一 農学大意 高野先生

第二 自治制度 刀禰先生

第三 地理 中澤先生

一、記事 なし

一、所感 諸先生の熱烈極まる教訓の中に己の信じる処に大に突進しべしとの事には斯の如の低能児にも奥の奥のどんぞこまでひびたり。

参月八日 土曜日 曇 安孫子春弥

一、起床 五時

一、学科 第一校時 静座法 高野先生
第二校時 畜産 大久保サン

一、記事 后後依り学科なし
一、所感 ナシ

三月九日 日曜日 後藤雄太

一、起床六時三十五分

一、学科 なし

一、記事 なし

一、所感 なし

三月十日 月曜日 曇天 土門熊太郎

一、起床 五時

一、学科 第一校時 養鶏 森谷先生（十時迄）
第二校時 畜産 大久保技師（昼迄）

第三校時 憲法筆記 結城君（二時迄）

企 企 町村視察要項 江坂先生

第四校時 柔道及剣道（随意）

一、記事 本日は諸都合上規定ノ学科はせず。高野先生及船越先生は置賜短期講習に御指導の任として出張す。尚本日は我が日本国民として等閑にすべからざる陸軍記念日なり。

一、所感 江坂先生の町村視察要項について習つた時は諺の「他山の石」を以て磨くと云ふ事について痛感した。各々純農村より変革的に至る農村経営と思想、今後文明思想、農村に進入諸々の形ちなりて設置する事が文明に共〔伴〕ふて、で□□しだらうと思と、返て各村の興亡は著しく自然に支配せられるであろう。著しく冒険的に興廢が知られるでせう。所謂□□云ひ人情と云ひ、変転を持つて居ると思ふ。我等は其の瞬間を握り悪魔と見留めたら予法〔予防〕策を講じ、□足させざる様に努力しなければならぬと思ふ。実に町村として此の重大問題を等閑すべからざる処と思ふ。

三月十一日 火曜日 晴 小形三郎次

一、起床 五時

一、学科 ナシ

一、記事 午前八時ヨリ金井村研究二本所九期生一同金井村ニ出張ス。

一、所感 本日ハ午前中ヨリ金井村視察〔視察〕ニ江坂先生ニ連ラレテ行ツタ。金井村ニ入ツテ見レバ何トナク又ドコトナク経倫〔経倫？〕上有福〔裕福〕ナル村デアルト心ニ思ツタ。陣場村役場ニ付イテ我一同ハ二階ニ案内サレタ。シテ五十嵐助役ヨリ村内一般ニ付イテ御話シ下サレマシタ。其ノ時ニ五十嵐助役サンガ我等ノ質問シタ時ニイカナル小サキモノマデモ快ヨク御話シ下サレマシタ。村長サンヨリモ御話シ有リ。其ヨリ小学校補習学校ヲ視察〔視察〕ス。校長サンハナカナカ質素ナ様ナデアリマシタ。金井村視察〔視察〕ニ付イテドコニヨツテモ皆快良ク御話シ下サレ、我々一同愉快ニ視察〔視察〕シテ六時頃、一同帰ヘル。

三月十二日 水曜日 晴 渡部鉄之助

起床 午前五時

一、学科 第一校時 法制筆記 結城誠一君

第二校時 植物学 江坂先生

第三校時 森林学 横田先生

一、記事 第四校時 大掃除 全部

一、所感 貝の音に目が開いた。はつと飛びおき出勤の仕度をしておると小形君に注意された。事務室へ行つて見ると江坂先生に先を取られた。残念と思ふた。掃除に先を取らうと一生懸命にやつた所が身が暖くなつた。寒い時はこれだと一つ経験を得た。をほり。

三月十三日 木曜日 曇 渡部一郎

一、起床 午前五時

一、学科 別ニナシ。

一、記事 第一校時。所長ヨリ修養訓「不動心」ニ就キ有益ナル話アリタリ。午後ヨリ森谷先生ノ引率ノ下ニ生徒一同農事試験場ニ行キ佐藤富十郎氏ヨリ本場及各分場

ノ任務ニ付キ話アリタリ。午後ヨリ一笑会ノ役員会アリキ。高野先生、置賜短期講習会ニ出張指導ノ所本日帰所セラル。

一、所感、思ヒ起セバ過ギシ大正九年ノ春マダ寒キ当年ノ昨日ハ、我方同胞ガ異郷ノ里ニテ獸ノ如キバルチザンノ為メニ惨殺サレタ日ナリ。当時ヲ思ヒ、ウタ、感慨ノ情ニ絶エ「堪エ」ズ。熱シテスグ冷メ易キハ之レ日本人ノ通有性ナリ。

三月拾四日 金曜日 曇 大川雄蔵

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 農村経営 高野先生

第二校時 自治制度 刀禰先生

第三校時 地理 中澤先生

一、記事 別になし。船越先生置賜短期講習会に出張指導の所、本日帰所せらる。

一、所感 ナシ

三月十五日 土曜日 阿部多一郎

一、起床 午前五時

一、学課 第一校時 産業組合 高野先生

第二校時 副業養鶏 森谷先生

一、記事 所長より午前十一時より十三時迄此の前の続き、不動心に付きて有益なる話有りたり。

一、所感 なし

三月十六日 日曜日 曇 木村庄右エ門

一、起床 午前六時

一、記事 ナシ

一、所感 ナシ

三月十七日 月曜 石橋八重次郎

一、起床 五時

一、学科 第一時間目 農学大意 高野先生

第二時間目 所長教訓

第三時間目 歴史 五十嵐先生

- 一、記事 午前五時軍隊二十四五人、視察に参る。同七時に帰る。
- 一、所感 無し。

三月十八日 火曜 雪 成田雄一

- 一、起床 五時
- 一、学科 一校時 農村経営 高野先生

二校時 参拝ノ題ニテ 加藤所長

- 一、記事 午後一時ヨリ実業補習学校教員養成所生徒及農事試験練習生来所ス。所長ヨリ修養訓アリタリ。同刻ヨリ森谷先生ノ下ニ農事試験場ニ行キ、杉山技師、私等一同ニ園芸ニ関ステアルナニモノカヲ暗示セリ。

一、感想 所長初諸先生カラハ浸透作用ノ如ク同化サレツ、アルコトヲ喜ブ。僕等ハ自己ノ向上建設進歩ヲ外ニシテ人生ノ意義ヲ見出サレナイノダ。僕等ハ一步一歩築キ上ゲテ行キマセウ。青年ノ延ビントシル意気力ヲヨリヨキ方向ニ延バシコリ現在ノ僕等ニトツテ最モ大切ダノダ。私等ハ完全ナ此ノ理想郷ニ入ツテ日々努力向上シツ、アルコトヲ御互ニ喜バン。更ニ今ノ時代ニ適シテ居ル。教育サレツ、アル私々ハ国家ヲ背負テ立テバ進歩發展ス。諸君!! 我等青年ノ責任抱負意気大ナラズ哉。凡ベテノ形式ヲ打破シテ新方面ニ開路ヲ求メヨ。突撃スレ、赤イ血、暖イ心ノ持主ヨ所有者セ!!! 汝ノ名ハ自治ナリ。

三月十九日 水曜日 天候 快晴 森廣藏

- 一、起床 午前五時

- 一、学科 一校時 産業組合 高野先生

第二校時 農学大意 高野先生 及ビ実修ノ形式 加藤所長

第三校時 法制 地方課長

第四校時 武道 船越先生

- 一、記事 ナシ

- 一、所感 毎日諸先生ノ熱心ナル教訓ヲ受ケ労働ノ尊キ事真ヨリ感シタ。

三月二十日 木曜日 晴天 佐藤五雄
起 五時

- 一、時間目 書方 所長ノ話 土壤
- 一、記事 船越先生火に対する注意〔意〕を与へられた。
- 一、所感 無し

三月廿一日 金曜日 曇り 小野今朝吉
一、起床 后前五時

- 一、学科 ナシ
- 一、記事 春季皇霊祭ニテ休ミ
- 一、所感 ナシ

三月二十二日 土曜日 曇天 金子藏夫

- 一、起床 五時
- 一、学課
 - 一、一校時 甘藷栽培付て 江坂先生
 - 一、二校時 武道・読書 加藤所長

- 一、記事。午後二時四十分より列車にて加藤所長、飽海郡中堅青年会講習に出張する。
- 一、所感。午後三時から船越先生の許可で本校馬を借り乗馬。市外運動せしむ。僕くは□
□にて、馬司愛□僕くは馬と云ふ家畜と共に此の大自然の田園生活□よつて生る。

三月二十三日 日曜日 曇 大塚淳治

- 一、学科 ナシ
- 一、記事 高野先生、森谷先生の両先生お帰りになる。
- 一、所感 絹を出す蚕はまづ桑を喰ひ 志をとげる者まづ 修養をすべし

三月二十四日 月曜日 曇 伊藤良輔

- 一、学科 第一校時 植物学 江坂先生

第二校時 農学大意 高野先生

- 一、記事 午後ヨリ県会議事堂ニ井上先生国民精神作興ニ関スル講話ヲ聞ニ行ク。午後四

時ヨリハ東村山郡下ノ中堅青年ノ短期講習ニ来所シタ。

- 一、所感 後学科講習モ四十日、今マデノ無意味ニ暮シタ事ヲ悔ヤマズニハ居ラレナイ。然シ何ラカ気が晴々トナツタヤウナ気ガシマス。又三年ト云フ永イ間農村青年トシテ無意味ニ暮シタ事ヲ悔イテ居リマス。

三月廿五日 火曜日 本間祐治

- 一、学科 一校時 高野先生 生活問題論
二校時 所長先生 事々物々に付いての修業

三校時 高野先生 丁抹〔デンマーク〕人ダルクスの話

四時間目 加藤先生友人横浜工業学校体操教師武田先生が約一時間位体操に就いての講話あり。

- 一、記事 右事項、昨日来所せる東村山郡下青年団と一緒に道場に於て講話を受けた。

- 一、所感 愈々本当の春になった様な気がして此の血氣盛りの我等青年は一寸□□内に居る事が苦しい感がします。短期生は期日も短い為かどうしても長期に比すれば気分がしまつてない様に思った。して見ると我々は矢張り長い月日に□少の事々物々の修養に依るものである事が浮んだ。

- 一、本晩両講習生一緒に道場に於て茶話会を開いた。東村山郡書記石黒氏の挨拶あり、それより高野先生の十八番北海道の話されました。又九州の方面迄話されまして、貧弱ながらの日本一週〔一周〕話を拝聴せり。その後所長が見えまして洋行喜談、印度から仏国終点迄、その頃は我々のマブツも一心同体となり今少して手をあわせ、なんとも有難くなった処であった。それから話終り茶話会の目的を達する事に執着した。十時頃その場に於て礼拝した。完。

三月二十六日 水曜日(雪) 井上松雄

- 一、学科 一校時 高野先生の昨日の続き、人生問題の話しあり。二校時 所長先生の農村経営方法の御話しあり。

- 一、記事 二日の短期講習生の修了式、午後二時よりあり。而して解散す。長期生は四時より柔道及撃剣の練習やる。大塚君本日帰省せり。

- 一、所感 昨日の好天氣に引換え今日は雪降りなり。樽牛曰ふ、吾人は須らく現代を超越せざるべからずと。噫々然り、現代の如く混乱せる思想中に在って真理を見す

「る」ことも出来ず、唯世人の言に迷ふ。実に我等は現代を超越せざるべからず。

〔この後の一頁半切り取られている〕

三月廿七日 木曜日（晴天）山口茂右衛門

学科 第一校時 産業組合 高野先生

第二校時 習字 船越先生

第三校時 林学 横田先生

記事 日本青年会館の渡部氏並に秋田県の安藤氏御来所あり。午後参時三十分より例により大掃除を行ふ。

所感 入所前の自分は此の世に生存して居るに過ぎなかつた。勿論人生ははかなきものとして恨んで居つた。そして常に迷つて居つた。所長先生初め諸先生の御教育御指導により進むべき道も明かになつた。暗かつた前途も輝いて来「きた」。嗚呼自分は諸先生の御蔭で愈々新生した（完）。

三月廿八日 金曜日 北風 佐藤直之助

学科 第一校時 渡部氏、安藤氏

第二校時 農村経営 加藤先生、各青年団ノ意見 高野先生

第三校時 農学大意 高野先生

記事一、午前十一時 加藤先生 天童町青年主催の講習会に出張せり。

二、午後七時より図書室に於て荘内会を開けり。

所感 近頃は草履を満足に揃へ置くものは甚だ少なし。今少し気を付けてもらいたし。

三月二十九日 土曜日 天候晴 松田久五郎

一、起床時間 午前五時

一、学科 第一校時 農村講話（渡辺先生）、農村経営（高野先生）

第二校時 養鶏（森谷先生）

一、記事 第一校時「校時」ハ帝国青年会館ノ渡辺先生ノ講話デアリマシタ。

所感 本日ノ渡辺先生ノ講話ノ中ニ農村ハ自治経済社交ノ団体ナルコトヲオ話し致サレ、私ハ其ノ事ヲ聞キマシテ我々農村ハ一家族ノ如クナツテ農村ヲ益々向上シ

ヨウト感望シマシタ。

三月三十日 日曜日 晴後曇 黒坂武雄

一、起床 六時

一、学科 無シ

一、記事 無シ

一、所感 無シ

三月三十一日 月曜日 晴 中村竹尾

一、起床 五時

一、学科 一校時 農学大意（高野先生）

二校時 農村経営 加藤先生

三校時 農政 高野先生

午后 実習アリ

一、記事 所長殿、午后ヨリ寒河江へ行ク。

一、所感 表庭ニハ積雪ノカゲモ失セテ芽へ様トスル若草ノ上へ枯草ガ乱サレテキタ。世ノ変遷ハ不思議なもの。

四月一日（火曜日）天候 晴 当番 平田彦三

一、起床 午前五時

一、学科 一校時 植物生理 江坂先生

二校時 農村経営 加藤所長

三校時 植物生理 江坂先生

四校時 産業組合 高野先生

午後三時ヨリ甲組武道Ⅱ柔道及ビ剣道、乙組実習

一、記事 本日午前七時ヨリ理想信仰ヲ益々鍛練陶冶〔治〕スル上ニ参拝ノ形式ヲ益々深カラシメンガ為ニ薬師公園内ノ招魂社ニ行キ参拝セリ。次ニ我等ノ喜ブベキ事ニ本日ヨリ何事モ共ニ々ニ暮スベキニ名ノ友人ガ出来タ事ナリ。庄内ノ本間君、村山ノ竹田君。

一、所感 愈々残ス所、今一ヶ月トナツタ今日迄三ヶ月ノ才教訓ハ実ニ有益ナルモノデア

ツタ。眠レル私ハ初メテ目ガサメタ。此ニ於テ益々御指道〔導〕ヲ仰キ、出キルダケノ修養ヲ重ネル考テス。

四月二日 水曜日 曇 当番 淀野清二郎

一、起就〔床〕 午后九時就床

一、学科 第一校時 土壌 高野先生

第二校時 農村経営 加藤所長

第三校時 産業組合 高野先生

一、記事 午后三時より大掃除 校内及校外

一、所感 食物は人間活動の原動力なれば、労働に不都合なき程度に滋養を摂れは充分だ。徒に美食を暴食する必要なし。亦活動に必要なエネルギーを摂取すること食事の目的なれば、如何なる種類のものより之れを求めても差支なきなり。必ずしも米食に限らんや。所長さんの馬鈴薯を常食に取る云々、実に吾国現在の食糧問題の解決上尊い御言葉と思ふ。米、馬鈴薯中澱粉に優劣はない。馬鈴薯を常食するに至らば、食事も簡単となり時間の経済となり、且米飯の如く大量を求めずとも充分滋養価値がある。且消化の点に於ても馬鈴薯の澱粉は遙かに消化良好なり。喰ひ薯を喰ひ。

四月三日 木曜日 晴 沖津一郎

一、起床 六時

一、学科 なし

一、記事 なし

一、所感 なし

四月四日 金曜日 曇風 白石重一

一、起床 午前六時 就床 午后九時

一、学科 第一校時 土壌 高野先生

第二校時 自治制 刀禰先生

第三校時 武道 実習 乗馬

一、記事 一組乗馬ヲ江坂先生ニ習フ。二三組ハ縄ナヘ。四五六組武道。

一、所感 諸先生ノ師導教訓ニツレテ、自分ノ及バサルト学問ノ深淵ナルヲ感ジ、大イニ

奮闘セザルベカラザルヲ明良〔明瞭〕ニワカリマシタ。又我々ノ責任ノ大ナルヲ感ジラレマスノミナラズ、吾人ノ努力モ国家的ナラザルベカラズ。

四月五日 土曜日 晴 新藤新一

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 農学大意 肥料学 高野先生

第二校時 桑樹栽培 荒木技師

第三校時 同上

一、記事 第一校時八時ヨリ九時迄、第二校時ハ九時十五分ヨリ十時半迄、第三校時全十時四十分ヨリ十一時四十五分迄ナリ。午後学科ナシ、本日帰省シタル者多シ。

一、所感 寒イ冷タイ憂鬱ナ冬ノ日ガ大自然ノ恵ト共ニ暖カキ日ガ何時シカ巡ソテ来タ。

眠カラ覚メタ蛙ガ飛び出ス時季デアル。其ノ通り、永キ眠カラ醒メタ吾々ガ此ノ社会ニ出デテ大イニ活動スベキ時期デアル。イザ進メ諸共ニ理想ノ閃メク彼岸ヘ。

其ノ時ハ遠クハアルマイ。

一、寢床 九時十五分

四月六日 日曜日 晴 手塚三郎

一、起床 午前六時

一、学科 ナシ

一、記事 午后一時半頃、大倉村ノ青年ニ拾人程来タリ。船越先生ノ話シヲキイテ帰ル。

一、所感 ナシ

四月七日 月曜日 晴 原田義松

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 植物学科 江坂先生

第二校時 金井村研究 五十嵐先生

第三校時 学科 ナシ

第四校時 擊劍 柔道 船越先生

一、記事 第一校時農学大意ナレドモ先生ノ都合上植物ヲナシ、第二校時自治制ナルモ之亦都合ニヨリ金井村研究ヲナシ、第三校時歴史ナルモ学科ナク、午後一時ヨリ煙

草専売局見学ニ行キタリ。

一、所感 本日専売局ニ見学ニ行キ、各自ガ分業ニヨリ速ヤカニ立派ナル煙草ガ出来ル事ニヨリ分業ノ必要ナル事ニ感ジ、我等モ所長ノ御話ノ通り国家ヲ中心トナシ各自ガ得手ニ帆ヲアゲテ分業ヲ守リ一刻モ早ク成功ノ彼岸ニ達シル様務メナケレバナラン事ヲ痛切ニ感ジタリ。

四月八日 火曜 晴 杉沼善治

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 植物 江坂先生

第二校時 自治行政 刀祢先生

第三校時 農学大意 高野先生

一、記事 第三校時は金井村研究なれども先生の都合上農学大意をなしたり。

一、所感 なし

四月九日 水曜 晴 安孫子元吉

一、起床 午前五時

一、学科 第一校時 金井村研究 五十嵐先生

第二校時 法制 小渕〔泉〕先生

第三校時 肥料 高野先生

第四校時 米ノ話 林先生

一、記事 所長庄内地方ヨリ帰所。大掃除一組ノ畑ノ畑ノ在事アリ。耕耘シ人屎尿堆肥ヲ施シ馬鈴薯、夏大根、菜、ホーレンソウヲ播種ス。

一、所感 穀物検査〔検査〕所ノ林先生ヨリ米ノ品質ト価格ノ関係、多収穫ニ対シテ誤マレル所ヲ聞カサレ、之ヨリハ大イニ実質ノ多収ニ勤ムベキ事急ナルヲ思フ。

四月拾日 木曜 晴 柴田誠蔵

一、起床 午前五時

一、学課 第一校時 農村経営 所長

第二校時 林業 横田先生

第三校時 習字 船越先生

一、記事 午後一時より県会議事堂に開催せる精神作興の講演会に一同出席す。講師は東洋大学教授高島平三郎氏、日蓮宗大学講師清水龍山氏なりき。

四月拾壹日 金 晴 樋口庄三郎

一、起床 午前五時

一、学課 一校時 農学大意 高野先生

二校時 自治制度 刀尔先生

三校時 米二付キテ 林先生

一、記事 午前ノ学課ニ県庁ノ刀尔先生ガ御出下サレ、午後ノ学課ニ穀物検査〔検査〕場ノ林先生ガ御来校下サレタ。

一、感想 最早四月モ半ニ近ヅイタ。昨今ノ日和ハ心カラ春ラシイ感ジヲ起サセル。思ヘバ吾等ノ入所ノ日ヨリスデニ三ヶ月ヲ算ス。感ナキニ非ラズ。余ス処十幾日ニシテ愈々実地ニ力ヲ試ス時ガ来タノダ。吾等ハ青年ナリ。吾等ハ吾等ノ血トカトヲ以テ吾等ノ理想ヲ実現センカナ。

四月十二日 土 晴 竹田哲

一、起床 午前五時

一、学科 一校時 米之話 林先生

二校時 産業組合 高野先生

一、記事 林先生ガ遅ク見ヘられたので、九時近く初む。十時ニ終ル。後高野先生の産業組合。朝所長サント森谷サンガ置賜ノ方ニ行カレマシタ。今年ノ秋田旅行ヲ止シテ北海道ニ旅行ニシヨウト御話シテ居ラレマシタ。

一、感想 我々ノ此ノナツカシイ自治講習所ヲ出ル日モ今十幾日ト近ヅイタ。心身鍛練ニ努力シタ此ノ三ヶ月モ余リニ短カッタ。長イ三ヶ月ノ月日、所感ナキアタワズ。余リニ平凡ニ過シタルコトヲ後悔スルト共ニ諸先生ノ御教訓ニヨリテ自分ト云フモノヲ認メタルコトヲ喜ブ。

四月十三日 日曜 鈴木幸一

起床 六時 曇天

一、学科 ナシ

一、記事 ナシ
所感 ナシ

四月拾四日 月曜日 少雨後曇 高橋貞次

一、起床 五時

一、学科 一校時 植物 江坂先生

二校時 歴史 五十嵐先生

三校時 習字 船越先生

四校時 甲組武道、乙組実習、五組乗馬

一、記事 所長殿、米沢に講演に行かれた。高野先生農場に行かれ留守ノ為学科を変更ス。

一、所感 暖になつて気が緩み、すっかりしない。襖は気が引けて実にいゝ。

四月十五日 火曜日 晴 阿部四郎

一、起床 五時

一、学科 一校時 馬鈴薯栽培 所長先生

二校時 肥料学 高野先生

三校時 自治制度 刀爾先生

四校時 金井村 五十嵐先生

一、記事 所長先生ニハ第一校時ノ馬鈴薯栽培ヲ教授後師範学校ノ御講演ニ行カレタ。

一、所感 馬鈴薯ノ栽培ハ徹底ノニ教授アリ。又馬鈴薯ニ付イテ各国ノ状態、又将来ノ馬

鈴薯ニ就イテ詳細ニ知り得タルト同時ニ僕等ハ實際的ニ徹底セシメナクテハナラナイ。

次ニ農家経綸上肥料ノ問題モ高野先生ヨリ御話シアリシ如ク、家畜ノ飼料ト肥料ニ主
キヲ置キ、総ベテ我々ハ理想ノ農業ヲ認ムル処ニ始メテ之等ノ問題ヲ研究スルノ必要

ガアル事ヲ承知スル。

四月拾六日 水曜日 武田勇吉

一、起床 五時

一、学科 一校時 肥料 高野先生

二校時 産業組合

三校時 柔道試合

一、記事 所長先生ニハ中学校並ニ工業学校ニ御講演ニ御出ナサル。

一、所感 第三校ノ柔道ノ試合ハ舟越先生ノ（指導）元ニ行ナハタルガ、実ニ始メヨリ生徒ノ元氣ヨク、而モ勝負ヲ争フ様ナ見苦シイ所ハ勿論ナク、平常ヨリノ鍛へ上ケタ所ガヨク現レテイルト思フ。試合ノ中程ニシテ所長帰ラセラレ試合ヲ御見ナサレテ、実ニ満足ナレタト言レタ。所長ヨリ試合ノ慰勞トシテ生徒全体味シイ餅ヲ戴ク。又所長ハ過去ノ思出ノ語〔話〕シヲナサイマシタ。其レハ一人デ遠イ異国（朝鮮）ニ旅シタ語〔話〕デシタ。其ノ語ヲ聞キ、吾々如何ニ所長ノ御心ノ遠大無辺ナルカヲ知ツタ。其ノ遠大無辺ノ御心、其レハ所長ノカアル鍛練ニヨルノデアリマセンカ。鍛練―鍛練、其レガ自国ノ輝キヲ大ナラシメ、自国ノ發展ヲナサシメ、一ツノ原動力ナノダ。

四月十七日 木曜 晴 遠田寅治

一、起床 五時

一、学科 一校時 肥科学（高野先生）

二校時 産業組合（〃 〃）

三校時 法制（小泉地方課長）

四 大掃除

一、記事 所長サンハ山形女子師範並ニ女学校ニ講演ニ行カレタ。

一、所感 早ヤ当所ノ学科終了期モ近イタ。今ニ至リテ反省シテ見ルニ、諸先生方ノ御教訓ニヨツテ少シク悟リツ、アル様ニ思ハレル。殊ニ我等ハ日本国ト云フモノ、一分子デアル故ニ我等ガ良否ハ国家ノ安危ニ罹ルト云フコトガ痛切ニ感ズル様ニナツタ。然シ我等ノ修養ハ未ダ未ダ足ルベキデナイ。一生ヲ通シテ鍛練陶冶シ以テ己ガ分担ヲ完全ニ果シタイト思ツテ居ル。

四月十八日 金曜日 晴 佐藤常吉

一、起床 五時

一、学科 一校時 麦に付きての御話 加藤所長

第二〃〃 自治制 刀禰有秋先生

第三〃〃 植物学 江坂〔江坂〕先生

第四〃〃 農業倉庫 穀物試験場 林先生

第五〃〃 武道 舟越先生

一、記事なし

所感 貧弱な自分は始めて明瞭に自己の貧弱なる事を徹底的に自覚した。若い元気の有る赤い血潮の盛んなる時こそ、困難に打勝つ力を修養して大いに努力しなければならぬ事を覚悟した。

四月十九日 土 快晴 保科宇一郎

一、起床 五時

一、学科 九時迄 肥料学

一、記事 午前九時より霞城聯隊の軍旗祭見学に行く。

所感 軍旗祭に於ける模擬戦を見て笑ひ崩れ居りし人間の、少くなかつたのは慨歎の至りだ。まだまだ客観的自我的凝視が足りないんだ。

四月二十日 日曜日 晴 渡部勝太郎

一、起床 五時半

一、学科 ナシ

一、記事 ナシ

一、所感 ナシ

四月二十一日（月）雲 佐藤好

一、起床 五時

一、学科 第一校時 肥料学 高野先生

第二校時 歴史 五十嵐先生

第三校時 地理 中沢先生

一、記事 なし

一、所感 僕の様な平凡な人間にも諸先生方は御熱心に教訓なさるのは実感謝する次第であります。

四月二十三日（火）晴 安孫子春弥

一、起床 五時

一、学科 第一校時 金井村研究 五十嵐先生

第二校時 所長ノ話一時間 肥料一時間

- 一、記事 后後学科ナクシテ撃剣ノ試合有リ。約半分ノ人ガヤツテ終ル、残りハ明日。
- 一、所感 いや今日の試合は面白かつた。だが又苦しくあつた。俺の体は皆傷だらけだ。四五ヶ所も赤紫色になつて居る。而し其れは無理のない話だ。撃剣なんか全々〔全然〕一本もやつた事もないんだから。其れでも二人でも三人でも切つた所が感心する、自分で自分を。兎角木剣をやる気でやつたのだから、向の人も痛たかつたらう。（□ん□ん、俺も苦しかった、君以上）

四月二十三日 水曜日 晴 後藤雄太

- 一、起床 五時

一、学科 第一校時 肥料学 高野先生

第二校時 一代期の苦心談 加藤所長

第三校時 産業組合 高野先生

第四校時 武道 加藤先生、船越先生

一、記事 午前 江坂先生ハ山口君ノ家へ参レリ。山口茂エ門君、本日帰省ス。船越先生

早朝ヨリ村山農学校ニ出張セリ。午後六時頃帰所セリ。

- 一、所感 なし

五月〔四月〕 木曜日 晴 小形三郎次

- 一、起床 五時

一、学科 第一校 地理 中沢先生

第二校 肥料学 高野先生

一、記事 午后カラ剣道ノ誠〔試〕合、午後八時ヨリ武道ニツイテ所長サンアリ。

一、所感 今日ハ剣道ノ誠〔試〕合ハ大部元気ガ良カツタ。又所長サンハ真ニ心カラ吾々ヲ良ク武道精神ヲ入レテ下サル様ニト常ニ思ハレテ御話シ下サル事ニハ我々ハ此ノ精神ノ何分ノ一ナリトモ現実シナクテハナラナイ。

四月廿五日 金曜日 雨天（土門熊太郎）

- 一、起床 五時

一、学科 武道ハ甲組、乙組ハ掃除。午前中ハ高野先生肥料学、所長サン農村経営学、午

后ヨリ甲組武道、乙組実習縄ナヒ及藁打ツ。

一、記事 本日は雨天であつた。万開〔満開〕せる桜花は散つただらう。美しい花の感じは室内にて繰返される。

一、所感 人生中の一大経路は吾が加藤所長の御繰返に依て充分徹底した。尊い生命を何処に授げるかと云ふ事も明かになつた。今度は奮闘努力を以つて反省しつゝ大人格に帰へし人間の本能を發揮し永遠の生命を得やうと痛感した。

われと吾が心ををり 省み□すらず 迷ふ事あり
と反省しつゝ突進し様と思ふ（完）〔この後、一頁半切り取られている。〕

四月廿六日 曇 土曜日 渡部鉄之助

一、起床 五時

一、学科 第一校時 肥料学 高野先生

第二校時 所長サンノ御話シ

一、記事 明日ハ日曜ト言フノデ各々半数以上帰郷シタ。土門熊太郎君、コゝ長ラク帰省シタ。

一、所感 近頃ハ公園ノ方モ非常ナルニギワイヲ呈シテオル。ソレニ共ウテ気がユルミ来ル様ナ気ガスル。「所長ノ話シニモ災変ノ後トハ思ハレヌ程ニ文弱ニ流レテ居ル様ダ」ト。真ニ相デアルト思ウタ。然シ我々ハ奮闘努力シ此ノ世ニコノ活舞台ニ出様デハナイカ、諸君。完

四月廿七日 日曜日 晴 佐藤五雄

一、起床 五時半 皆掃除

一、学科 無シ

一、記事 無シ

一、所感 無シ

四月廿八日 月曜日 晴 大川雄蔵

一、起床 五時

一、学科 一校時 農村経営 加藤所長

二校時 歴史 五嵐〔五十嵐〕先生

三校時 肥料学 高野先生

一、記事 一校時は農村経営十時迄、二校時学科の都合上午後一時迄歴史で、三校時四時半迄で。四時半より自由に武道をした。

一、所感 別なし

四月廿九日 火曜日 晴 渡部一郎

一、起床 五時

一、学科 一校時 農村経営 所長

二校時 植物 江坂先生

三校時 自治制度

四校時 生糸ニ就テ 鈴木先生

五校時 植物 江坂先生

一、記事 夜八時ヨリ茶話会ヲ開ク

一、所感 月日ノ立ツ!!! 早キ事ニ驚ク。吾人ハスベカラク、スギシ日ヲ悔ムガ如キコトナク、其ノ日其ノ日ヲ有意義ニ送ルベシダ。

四月卅日 水曜日 雲天 阿部多市郎

一、起床 五時

一、学課 一校時 肥料 高野先生

二校時 農村経営 所長

一、記事 午後ヨリ学課ナシ

一、所感 ナシ